

産衛だより

平成 24 年度第 4 回理事会議事録

日 時：平成 24 年 12 月 22 日（土）13：00～17：00

場 所：日本公衆衛生協会ビル 1F 会議室

出席者：大前和幸（理事長）、圓藤吟史（副理事長）、五十嵐千代、大久保靖司、大脇多美代、萩野景規、加藤 元、岸 玲子、清田典宏、小林章雄、五味秀穂、齊藤政彦、菅沼成文、住徳松子、諏訪園靖、角田 透、中川秀昭、昇淳一郎、原田規章、東 敏昭、広瀬俊雄、廣部一彦、堀江正知、宮本俊明、柳澤裕之（以上理事）、實成文彦（監事）

欠席者：相澤好治、車谷典男、中路重之、野見山哲生、吉田 勉（以上理事）、中明賢二（監事）
（委任状あり：車谷典男、吉田 勉）

理事出席者 25 名、委任状 2 名であることから、定款第 36 条および第 29 条により、理事会が成立していることを確認した。議事録署名人に、昇淳一郎、東 敏昭の両理事が指名された。

審議事項

- 平成 24 年度第 3 回理事会議事録について：齊藤総務担当理事
一部表現を訂正して了承された。
- 法人改革（公益認定申請）、及び細則等の改正について：大前理事長
内閣府に提出していた公益法人移行認定の申請に対し、公益認定等委員会より、認定の基準に適合すると回答が出されたことが報告された。次事業年度より公益社団法人となるべく手続中である。
これを受け、公益法人移行後に適用する各種の細則についての改定案が提示され、審議した。
 - ・代議員の選任に関する細則
 - ・選挙管理委員会に関する細則
委員の構成を変更する案が提示された。今後選挙方法の統一等も検討していくこととなった。
 - ・会員に関する細則
地方会準会員および学生会員の定義等が確認された。
 - ・会費に関する細則
 - ・役員に関する細則
理事の定数を定める方法の新案について説明された。各地方会にそれぞれ 1 名を置き、残る定数を各地方会の有権者数に基づいて比例配分する。今後は選挙の都度、新しい配分方法により各地方会における理事の定数を計算することとなった。
 - ・地方会に関する細則
地方会長については任期等も明記することとした。
 - ・委員会に関する細則
委員の定数については、必要な場合には理事長が若干名の委員を追加できることとした。委員会の機能の答申・

報告に加えて「提言」を追加したいとの意見があり、今後検討していくこととした。

- ・部会に関する細則
幹事の定数については、必要な場合には理事長が若干名の委員を追加できることとした。部会長会議についての定義を定めた。
 - ・研究会に関する細則
今回審議した上記以外の各細則については、担当理事が決められ、次回理事会までに改定案を作成するよう求められた。
- 役員選挙制度について：齊藤総務担当理事
審議事項 2 に関連して説明され、新制度が了承された。
なお、理事長の選任については、公益法人移行後は理事会の権限となるため、次期理事長選定のための移行措置として次の提案が示された。本年度の理事長候補者選挙は現行の規程どおりに行い、その結果を受けて次期理事会は理事長選定を審議するものとし、来年度の総会後に臨時理事会を開催して決議する。また同時に業務執行理事を決定する。この方針は次期理事候補者が参加する次回理事会において確認することとした。
 - 表彰制度候補者推薦について：各担当
各選考委員会の担当理事より以下の選考結果が報告され、それぞれ承認された。
名誉会員：清田理事より報告。河野啓子氏（東海地方会）、荒記俊一氏（関東地方会）が推薦された。
学会賞：萩野理事より報告。応募者は 2 名。川上憲人氏（東京大学）が学会賞として推薦された。また、もう一人の候補者の小木和孝氏（公益財団法人労働科学研究所）を別枠で表彰するという委員会からの提案が出され審議した。小木氏の業績と貢献度の高さから、「学会栄誉賞」を創設して授与することとした。この賞の選考については規則化することとした。
奨励賞：諏訪園理事より報告。3 名応募のうち、研究分野からの候補として竹内靖人氏（中央労働災害防止協会大阪労働衛生総合センター）、実地活動分野からの候補として森口次郎（京都工場保健会）が推薦された。
功労賞：岸理事より報告。福光ミチ子氏（BOOKS 情報センター福岡）、福地保馬氏（北海道大学）が推薦された。
 - 平成 25 年度の事業計画（案）について：齊藤総務担当理事
公益法人移行後に使用する書式と内容が説明され、質疑応答のうえ承認された。
 - 平成 25 年度の予算（案）等について：角田会計担当理事
公益法人移行後に使用する書式と一般会計の内容が説明された。一部減額となっていた学会開催準備金、全国協議会開催準備金については、議論の結果、前年度と同額に戻すこととなった。委員会費は、ワーキンググループ開催時の交通費等を考慮して増額することとした。また、地方会や部会で徴収している費用については「活動費」と統一するよう求められた。
なお、来年度以降の予算策定に際しては、地方会、部会、委員会、研究会からの予算案提出を 11 月末までに求め、集

約する必要があることが伝えられた。

7. 労働衛生関連法制度検討委員会からの提案について：岸理事
前回理事会での提案後、理事からの意見をを受けて同委員会にて再検討し修正した「労働衛生法令の課題と将来のあり方(案)」が提示され、説明された。労働安全衛生法の見直しに関する課題と、広範囲な制度改革が必要な課題に分けて、取り上げており、内容は承認された。数点の要望、指摘があり、委員会では再度推敲のうえ第86回日本産業衛生学会において会員に報告することとした。

また、委員会の新名称について、今後の活動を見据えて「政策」を追加したいとの提案が出され、「労働衛生関連政策法制度検討委員会」(略称「政策法制度委員会」)と改名することとなった。

8. 専門医制度委員会の内規変更について：東理事
指導医と専門医の更新条件についての追加修正が説明され、承認された。
9. 震災関連石綿・粉じん等対策委員会報告書について：広瀬理事
委員会発足後5回の委員会を開催し、まとめた報告書の骨子が説明された。理事は各々内容を確認して委員会に意見を寄せることとし、委員会ではそれらを受けて検討をした最終版を作成し、次回理事会で確認のうえ第86回日本産業衛生学会において会員に報告することとした。
10. 職業性呼吸器疾患研究会からの要望について：菅沼理事
厚生労働省指定の「石綿健康管理手帳」指定医療機関の基準を、知識を備えた産業保健の専門家も対象とするように、改定を求めたい旨の説明があった。研究会には確認すべき事柄を踏まえたうえで具体的な提案を提出するよう求められた。

11. 全国協議会の開催運営について：斉藤総務担当理事
次回(第24回)以降の開催地の予定について4部会で調整した結果、第24回：北陸甲信越地方会、第25回：中国地方会、第26回：近畿地方会となったと報告された。企画運営委員長については、担当地方会長と部会長が協議のうえ決定するよう求められた。なお、全国協議会の名称変更については、今後産業衛生技術部会が参加することとなった場合に検討することとした。

12. 禁煙学術ネットワークの要望書について：斉藤総務担当理事
禁煙学術ネットワークが、JR6社と関西私鉄3社に提出する予定である禁煙化要望書について、当学会の参加の是非について審議し、参加することとなった。

13. 次回理事会開催予定について：斉藤総務担当理事
今回は平成25年4月13日(土)の予定。

14. その他

- ①専門医制度委員会の次期委員について：東理事
次期委員の案が提示され、承認された。
- ②労働衛生関連法制度検討委員会の新委員推薦について：岸理事
同委員会より委員1名の増員が申請され、推薦された1名を承認した。
- ③日本学術会議若手アカデミー委員会からの依頼につい

て：斉藤総務担当理事

日本学術会議より協力依頼のあった国内若手研究者ネットワーク関連のアンケートについて、回答を本年度の奨励賞受賞者である和田耕治氏(北里大学)に依頼することとした。

- ④第86回日本産業衛生学会の会期について：斉藤総務担当理事

総会の開催日が平成25年5月14日と決定したため、公表している学会会期も5月14日からとすることとした。

- ⑤厚生労働省労働基準局安産衛生部労働衛生課との懇談会の開催について：大久保総務担当理事

第1回目の懇談会を近日中に開催することとなった。

- ⑥学会抄録の著作権について：斉藤総務担当理事

年次学会時の演題講演集について、著作権は学会に帰属することが確認された。演題募集の際にも明記することとした。

- ⑦産業看護部会の幹事交代について：五十嵐理事

近畿地方会推薦の産業看護部会幹事1名の交代が申請され、承認された。

報告事項

1. 第85回日本産業衛生学会報告：小林理事

収支決算が報告され、806,235円を学会助成返還金として返金したことが報告された。学会開催に際しては参加者を増加させる努力が肝要であると伝えられた。

2. 第86回日本産業衛生学会準備状況報告：菅沼理事

演題登録の期間を延長していることが報告され、投稿の推奨が呼びかけられた。

3. 第87回日本産業衛生学会準備状況報告：荻野理事

会期の最終日(平成26年5月25日)に、日本衛生学会とのジョイントミーティングを開催すると報告された。

4. 第22回産業医・産業看護全国協議会報告：五十嵐理事

参加者は、全国協議会本会、特別研修、市民公開講座を合わせ約1000名となり、盛会であったことが報告された。

5. 第23回産業医・産業看護全国協議会報告：斉藤理事

第2報が紹介された。第22回産業衛生技術部会大会と合同開催すると報告された。

6. 第21回産業医・産業看護全国協議会からの会計報告における申請について：住徳理事

平成25年1月に九州地方会において監査を行い、九州地方会理事会にて最終決定を出す報告された。

7. 厚生労働省の監査について：大久保総務担当理事

平成24年10月26日に定例の監査を受けたことが報告された。財務関係の指摘として、地方会、部会等、各会においても経理規程を遵守し、経理の証拠書類は定期的に確認するようにとの指導があった。

8. 役員のコIについて：圓藤副理事長

編集委員会において検討が進んでおり、整合性を取って、次回理事会で規程案を提出する予定であると報告された。今後、役員をはじめとして適用を進める予定である。

9. 中央選挙管理委員会報告：柳澤理事
代議員選挙は滞りなく終了したことが報告された。理事候補者選挙は年内に完了する予定であり、その後の理事長候補・監事候補者選挙のスケジュールが説明された。
10. 産業医部会報告：広瀬理事
産業医部会報第 47 号の発行について報告された。
11. 産業看護部会報告：住徳理事
部会員数や事業報告、また今後の事業予定が報告された。
12. 産業看護職専門制度 WG 報告：住徳理事
2 回のワーキンググループ会議を開催したこと、その内容が報告された。今後は新制度の設計や名称、その他試験制度などを具体的にまとめていくことが報告された。
13. 産業衛生技術部会報告：堀江理事
第 21 回産業衛生技術部会大会及び技術専門研修会を第 22 回全国協議会の会期中に開催し、盛況であったこと等が報告された。
14. 産業歯科保健部会報告：加藤理事
第 22 回全国協議会では、共通のテーマでの 4 部会合同シンポジウムで、広く情報発信できたこと等が報告された。
15. 専門医制度委員会報告：東理事
指導医の高齢化に伴う指導医不足や研修施設不足が生じていることが報告された。
第 22 回全国協議会会期中に実施した第 2 回の専攻医試験には予想以上の申し込みがあり、23 名が合格したと報告された。
16. 担当理事報告：各担当
 - ① IT 担当：諏訪園理事
関東地方会での理事候補者選挙において電子投票で実施したところ、180 人中 130 人が参加したことが報告された。開票結果も速やかに確認できて非常に便利であるため、今後の利用が呼びかけられた。
 - ② ACOH 担当：東理事
第 2 回の企画運営委員会があり、協賛や共催の話が進んでいるため、順次理事会に連絡し、その承認可否判断を依頼すると伝えられた。
 - ③ 許容濃度等に関する委員会担当：大前理事
学会誌 9 月号に掲載した許容濃度表に誤植があり、1 月号に訂正が入ると報告された。
17. 公的委員会等情報報告：各担当
 - ① 内閣府自殺対策委員会：五十嵐理事
自殺総合対策大綱の見直しが終了し、閣議決定されたことが報告された。産業保健分野では学会からの提案も取り入れられており、前進があったと述べられた。
18. 学会名簿使用許可報告：斉藤総務担当理事
部会員名簿の使用許可 2 件が提出され許可したことが報告された。
19. 会員の状況：斉藤総務担当理事
報告がなされた。(正会員数：7,682 人／平成 24 年 12 月 12 日現在)
20. 協賛・後援等：斉藤総務担当理事
以下の 5 件が報告された。

- ・第 32 回医療情報学連合大会 (協賛)
 - ・第 40 回日本毒性学会学術年会 (協賛)
 - ・第 30 回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会 (協賛)
 - ・「健康いきいき職場づくりフォーラム」設立記念シンポジウム (後援)
 - ・第 61 回日本職業・災害医学会学術大会 (後援)
21. その他：斉藤総務担当理事
特になし。

平成 24 年度臨時理事会議事録

日 時：平成 25 年 1 月 28 日 (月)～1 月 31 日 (木)

場 所：インターネット上

出席者：大前和幸 (理事長)、圓藤吟史 (副理事長)、相澤好治、五十嵐千代、大久保靖司、大脇多美代、荻野景規、加藤 元、岸 玲子、清田典宏、車谷典男、小林章雄、五味秀穂、斉藤政彦、菅沼成文、住徳松子、諏訪園靖、角田 透、中川秀昭、昇淳一郎、野見山哲生、東 敏昭、広瀬俊雄、堀江正知、宮本俊明、柳澤裕之、吉田 勉
定款第 35 条に基づき、大前理事長が平成 25 年 1 月 22 日に臨時理事会の招集を通知し、平成 25 年 1 月 28 日に審議期間 4 日間として開催された。期間中 27 名の理事が出席し、臨時理事会が成立した。

審議事項：定款にかかわる細則 (案) の審議

平成 24 年 12 月 22 日開催の理事会において審議した定款に関わる細則 (案) について、審議時の指摘を踏まえて基本問題検討委員会内で加筆修正した案が平成 25 年 1 月 13 日にメールにて全理事および全監事に提示され、1 月 20 日までに意見を求められた。期間中大きな変更の意見はなく、字句修正のみが行われて最終案が作成された。この最終案について、各理事に賛否の投票 (記名) が求められた。

審議期間中、27 名の理事が審議に参加し、投票結果は賛成 25 名、反対 1 名、保留 1 名となり、定款にかかわる細則 (案) は承認された。

なお、一部の細則 (案) は総会の議を経て施行されることとなる。

平成 24 年度第 5 回専門医制度委員会議事録

日 時：平成 25 年 1 月 12 日（土） 13：00～16：30

場 所：東京八重洲ホール 新第一ビル 5F 513 号

出席者：東 敏昭，車谷典男，宮下和久，宮川路子，山田裕一
森 晃爾（事務局）

山田誠二（オブザーバー） 大久保靖司（オブザーバー）
大神 明（オブザーバー・事務局）

欠 席：石竹達也 大久保利晃（オブザーバー）

昇淳一郎（オブザーバー・担当理事）

I. 報告事項

1. 指導医・専門医・研修医登録状況について
森事務局長より，専門医制度登録数の現状報告があり，専門医登録数 498 名，指導医名簿登録 303 名（特別措置による指導医 16 名を含む），専門医名簿登録者 195 名との報告があった。
2. 理事会報告
東委員長より特別措置指導医の推薦に関する細則改定案が承認されたこと，次期専門医制度委員が承認されたことの報告があった。
森事務局長より指導医の認定要件に関する細則改正について説明があった。
3. 研修施設等の認定について
森事務局長より研修施設申請について報告があった。サービス提供型施設として 3 件，教育・情報提供型研修施設として 2 件申請があった。これらを委員長決裁により認定したことが報告された。
4. 第 86 回日本産業衛生学会（松山）における関連行事について
森事務局長・事務局大神より第 86 回日本産業衛生学会（松山）における専門医制度委員会，各試験部会（筆記試験分科会，口頭試験分科会，専門医制度説明会，専攻医試験の予定について説明があった。
5. 第 2 回産業衛生専攻医試験の結果について
森事務局長より報告があった。平成 24 年 11 月 24 日に東京で行われ，25 名受験した。試験の結果 23 名の合格者があった。1 回目の試験と併せて 73 名の専攻医試験合格者がいるが，登録申請について 12 月末までに 54 名が登録済みである。今後未登録のものについては登録を促していくことが報告された。
6. 第 3 回および第 4 回産業衛生専攻医試験の会場について
第 3 回は 5 月 18 日 日本産業衛生学会 松山にて開催予定。
第 4 回は 6 月 22 日 法政大学にて開催予定。（学会開催とは別の日程での試験であり，試験実施体制については，石竹専攻医試験部会長と検討する。）
第 5 回は 9 月 28 日 名古屋にて実施予定。

II. 審議事項

1. 専門医資格更新の合否について
 - (1) 「専門医」第 17 期 第 1 回目更新
(No.231, 235, 236, 243, 247, 250)
6 名申請あり。4 名については資料審議の結果，更新認定された。
2. 指導医資格の合否について
 - (1) 「専門医」第 17 期 指導医申請
(No.234, 242, 245, 246, 248, 249, 251, 252, 253, 255)
10 名の申請があった。何れも条件を満たすものとして，全員，指導医として認定された。
3. 指導医資格更新の合否について
 - (1) 「指導医」第 1 期 第 4 回目更新
(No.14, 29, 56, 63, 89, 101, 115, 118, 119, 126, 129, 167, 208, 213)
14 名申請あり。何れも条件を満たすものとして，全員の更新が認定された。
 - (2) 「特別措置による指導医」第 6 期 第 2 回目更新
(No.10011)
1 名申請あり，条件を満たすものとして更新が認定された。
 - (3) 「特別措置による指導医」申請
2 名申請あり，資格を満たすものとして判定された。
4. 平成 24 年度専門医制度委員会事業報告
森事務局長より平成 24 年度の事業報告があった。事業報告案は修正の後了承された。
5. 平成 25 年度専門医制度事業予定について
森事務局長より平成 25 年度の事業計画に説明があった。事業予定案は修正の後了承された。
6. 平成 24 年度決算（案），平成 24 年度予算（案）について
森事務局長より平成 24 年度の決算案・平成 25 年度予算案の説明があり了承された。なお，事務局の人件費については，現在の枠組みを再検討することになり，予算案の変更の可能性についても確認した。
7. 委員会の構成および委員長代行業務について
東委員長より新旧委員名簿の説明があり，委員会の承認の後，原案どおり理事会の承認が得られたことを確認した。なお，委員長と事務局の物理的な距離が離れた場合には，委員長の事務作業を補佐する委員長代行を委員の中から指名する旨の提案があり，了承された。
8. 研修医・専攻医に対するアンケートについて
森事務局長より研修医・専攻医アンケートおよび指導医アンケートについて説明があり，実施内容・方法について一部修正案が承認された。
9. 専攻医試験の広報について
今年の第 3 回・第 5 回専攻医試験会場が松山と名古屋を予定しており，それぞれ開催地の学会事務局にも広報を依頼することが提案された。
10. 日本専門医制評価・認定機構について
東委員長より現在の状況説明があり，日本専門医制評価・認定機構に対する姿勢や，専門医制度のあり方について議

論し、今後の基本姿勢が確認された。

11. 次回委員会開催日について

5月15日～18日 日本産業衛生学会（松山）の会場にて開催予定

平成 24 年度第 4 回産業衛生技術部会 企画委員会 議事要旨

日時：平成 25 年 2 月 23 日（土）11 時～13 時半

会場：早稲田大学 西早稲田キャンパス 51 号館 12 階 環境資源工学科会議室

出席（敬称略）：加藤隆康，田中 茂，橋本晴男，中明賢二，名古屋俊士，落合孝則，近藤充輔，原 邦夫，大西明宏，中村憲司，宮内博幸，村田 克（企画委員長・文責）

配布資料 1：第 16 回産業衛生技術専門研修会案

- 〳 2：平成 25 年度産業衛生技術フォーラム案
- 〳 3：第 23 回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会開催概要
- 〳 4：過去の部会大会および専門研修会，産業衛生技術フォーラム（平成 21 年～）
- 〳 5：日本産業衛生学会産業衛生技術部会規程（平成 17 年 4 月～）

1. 技術部会行事について

a. 第 86 回日本産業衛生学会

・平成 25 年度第 1 回産業衛生技術部会幹事会

5月16日（木）12：00～13：00 ひめぎんホール別館 1 階（第 9 会場）

・第 16 回産業衛生技術専門研修会

5月16日（木）13：00～15：00 ひめぎんホール別館 1 階（第 10 会場）

「個人ばく露測定の作業場での活用について—産業衛生技術部会個人ばく露測定検討委員会の中間報告—」講師：山田憲一（中災防），橋本晴男（EMG マーケティング），中原浩彦（EMG マーケティング）

・産業衛生技術フォーラム

5月17日（金）14：30～16：30 ひめぎんホール 3 階（第 6 会場）

「高年齢労働者の安全衛生を考える（仮題）」

演題名および講師：

(1) 高年齢労働者の転倒災害防止に有効な手段とは～身体機能テストの結果，労災統計から見えてきたこと～ 大西明宏（安衛研）

(2) 高年齢労働者の転倒予防・身体機能改善プログラム 川越 隆（労研）

(3) 体力低下に伴う労働災害の予防についての包括的取り組み～転倒予防・筋骨格系疾患・復職支援～ 乍 智之（JFE スチール 西日本製鉄所）

(4) 製鉄所における高年齢労働者の作業管理 岩根幹能（新日鉄住金 和歌山製鉄所）

・産業衛生技術部会 総会

5月17日（金）16：30～17：30 ひめぎんホール 3 階（同上）

b. 第 23 回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会との同時開催

・平成 25 年度第 2 回産業衛生技術部会幹事会

・第 17 回産業衛生技術専門研修会：化学物質管理をテーマ案として企画検討

・第 22 回産業衛生技術部会大会：企業における喫煙対策の実際についてをテーマ案として企画検討

2. 中明賞（産業衛生技術部会奨励賞）の授賞者について

3. 部会細則について

4. その他

9月28日午前の産業医・産業看護全国協議会メインシンポジウム案への演者推薦／法制度検討委員会報告／生涯教育委員会報告／個人ばく露測定に関する委員会／広報委員会／平成 25 年度企画委員会および幹事会・総会

5. 次回企画委員会開催予定

日時：平成 25 年 4 月 27 日（土）11 時～13 時

会場：早稲田大学 西早稲田キャンパス 51 号館 12 階 環境資源工学科会議室

日本産業衛生学会 産業衛生技術部会 個人ばく露測定に関する委員会

・委員会設置の趣旨

個人ばく露測定については厚生労働省等においてここ 2-3 年検討が進んでおり、近い将来に法制度に導入される可能性もあると聞いている。一方、個人ばく露測定の測定計画の設定方法やデータ評価方法などについては、我が国においてはまだまだ詳細や応用に係わる多くの部分に未確定の部分が残されている状況にある。そこで産業衛生技術部会内の臨時委員会として、特に上記の未確定な部分を中心に検討し、部会として推奨する方法を日本産業衛生学会会員と社会に対して提案する。本委員会の目的は、個人ばく露測定に関する技術的な提案を行うことであり、法制度上の規定や方法を提案することとしない。検討の結果がリスクに基づく、合理的で、科学的な産業衛生管理に結びつくようにする。個人ばく露測定に関する一般論、枠組み、戦略、その普及、及び今後の技術部会との関わりなどに関して、広い視点からの議論も一定程度歓迎する。

・委員会の運営

2012 年 9 月～2013 年 12 月頃まで（終了時期は未確定）、1～2 か月に 1 回程度開催する（計 6-8 回程度を予定）。

・委員会の構成（敬称略，五十音順）

熊谷信二（産業医科大学）

中原浩彦（EMG マーケティング合同会社）

名古屋俊士（早稲田大学）

橋本晴男（EMG マーケティング合同会社）：委員長

保利 一（産業医科大学）

村田 克 (早稲田大学) : 事務局
山田憲一 (中央労働災害防止協会) : 副委員長

日本産業衛生学会 産業衛生技術部会 個人ばく露測定に関する委員会 第 1 回委員会議事要旨

日 時 : 2012 年 11 月 7 日 (水) 18 : 30 ~ 21 : 00
場 所 : EMG マーケティング合同会社 会議室
出 席 : (敬称略) : 橋本, 山田, 保利, 熊谷, 中原, 村田

1. 本委員会の目的, 検討範囲, 運営について
 - ・運営方法 : 主に会合とメールによる。電話会議の可能性も検討する。
 - ・情報公開 : 検討内容などを技術部会 HP のほか, 産衛誌に掲載, 来年度の産業衛生学会で中間報告
 - ・成果物は文書としてまとめる。
 - ・委員会綱領案の修正
2. 中災防委員会 (厚生労働省委託) で検討されている個人ばく露測定方法の概要紹介
 - ・全体のフロー : 事前調査~デザイン・サンプリング~評価~対策~報告
 - ・同等ばく露グループ (SEG) を設定しこれを対象に測定, 評価する
 - ・サンプル数は原則 5 以上。
 - ・測定時間 : 8 時間。短時間測定は随時実施 (STEL, 天井値)
 - ・結果評価 : X95, Ma を使用し, ばく露限界値と比較, 3 区分とする (管理 1 ~ 3)
 - ・ばく露限界値は ACGIH-TLV と日本産業衛生学会値の低い方を採用
 - ・サンプル数が 4 以下の場合, $X95 = TWA \times 3$ とする
 - ・STEL, 天井値に対しても同様に評価し 3 区分とする。
3. 平成 22, 23 年に中災防が実地調査した個人ばく露測定に関する知見の概要紹介
4. 他の意見, 見解, 具体的検討項目の選定

日本産業衛生学会 産業衛生技術部会 個人ばく露測定に関する委員会 第 2 回委員会議事要旨

日 時 : 2013 年 1 月 9 日 (水) 13 時 ~ 15 時
場 所 : EMG マーケティング合同会社 会議室
出 席 : (敬称略) : 橋本, 山田, 名古屋, 保利, 熊谷, 中原, 村田

1. 委員会の運営について
 - ・委員会綱領を確定
 - ・部会 HP, 産衛誌への公開方法の検討

2. 欧米の個人ばく露測定法について概要紹介
3. 個人ばく露測定セミナー (昨年 4 回中災防開催) への質問について
 - ・測定士等から多く寄せられた質問についても検討課題策定の参考とする
4. 中災防検討会による方法について (情報提供)
 - ・個人ばく露測定の法制化に際しては, 特定の条件を満たした現場などに適用するとの案もある。
 - ・日をまたぐ測定 (2 日測定) が必要かどうかは未議論。
5. 各項目の検討 (合意事項)
 - ・「ばく露評価法」の全体の流れ (フロー) が基本にあり, その中に (狭義の) 個人ばく露測定を位置付ける。
 - ・個人ばく露測定における対策の優先順は常に「作業環境管理-作業管理-健康管理」である。「作業管理=個人ばく露測定の場合の対策」と言われることがあるが, これは不適切である。
 - ・ばく露限界値は少数の例外を除き, ACGIH の TLV か産衛学会の許容濃度のうち低い方を採用する。
 - ・対象物質は現作業環境測定対象物質のみでなく, それ以外のものを含む。
 - ・測定場所は屋外を含む。場所の制限を設けない。
 - ・測定法・分析法については本検討の範囲外とする。
 - ・測定時間が 8 時間を超える場合は, ばく露限界値を調整する。
6. 次回の予定
日程 : 2 月 20 日 (水) 13 時 ~ 15 時

日本産業衛生学会学会賞・奨励賞・功労賞の候補者推薦依頼

日本産業衛生学会
理事長 大前 和幸

日本産業衛生学会表彰制度規定に則り、学会賞、奨励賞、功労賞の候補者の推薦をお願い致します。各候補者の推薦の締め切りは8月31日です。

下記の日本産業衛生学会表彰制度規定及び各選考細則をお読みいただき、ご推薦下さいますようお願い致します。
推薦書式は、ホームページよりダウンロードできます。

記

日本産業衛生学会表彰制度規程

- 第1条 日本産業衛生学会は産業衛生学と産業衛生活動の発展に著しく寄与した個人または団体を顕彰するために表彰を行う。
- 第2条 表彰制度として、学会賞、奨励賞、功労賞、感謝状を設ける。
- 第3条 学会賞、奨励賞、功労賞の選考は別に定める細則に基づき選考委員会が推薦し、理事会で決定する。
- 第4条 選考委員は理事長が理事会に諮り、委嘱する。委員長は委員の互選による。
- 第5条 選考委員の任期は2年とする。
- 第6条 表彰は学会総会で行う。
- 第7条 各部会、地方会はこの規程及び細則に準じて、表彰することが出来る。
- 付則 1. この規程の変更は、理事会の議決による。
2. この規程は、平成12年10月14日から施行する。

日本産業衛生学会学会賞選考細則

- 第1条 日本産業衛生学会賞は、永年にわたる真摯な研鑽によりすぐれた研究業績を挙げ、日本産業衛生学会の発展充実に貢献の著しい本学会会員を顕彰することにより、わが国の産業衛生学領域における学問水準の飛躍的向上を図ることを目的とする。
- 第2条 学会賞の受賞者は産業衛生学に関する独創的研究で学会の発展に著しく貢献しているもので、会員歴が15年以上のもの。
2. 受賞者数は原則として毎年1名以内とする。
- 第3条 候補者の推薦は原則として正会員2名の推薦状を付して、下記の書類を理事長に提出する。ただし、推薦者のうち1名は受賞候補者と同一機関以外のものとする。
(1) 候補者の氏名、生年月日、所属、所属先住所、略歴、関連論文目録

(2) 業績の概要(2,000字以内)

(3) 受賞対象となる研究業績に係わる論文の別冊

(4) 推薦状

2. 候補者の推薦は、毎年4月1日から8月31日までの間に行う。

第4条 選考委員会は理事5名で構成する。委員長は委員の互選による。

2. 選考委員会は当該年度10月末日までに受賞候補者を理事会に推薦する。

3. 理事会は委員会の推薦に基づき、受賞者を決定する。

第5条 表彰は日本産業衛生学会総会において行い、受賞者は受賞講演を行う。

付則 1. この細則の変更は、理事会の議決による。

2. この細則は、平成12年10月14日から施行する。

3. 平成22年4月3日に改定した。

日本産業衛生学会奨励賞制度選考細則

第1条 日本産業衛生学会奨励賞(以下奨励賞という)は、産業衛生の分野における研究または実地活動において、価値ある業績を挙げている会員を表彰することにより産業衛生の振興と奨励を図ることを目的とする。

第2条 奨励賞の受賞者は、5年以上日本産業衛生学会の正会員であり、以下の活動成果並びに業績を挙げたものとする。

(1) 現在の成果ならびに将来発展の可能性

(2) 産業衛生への实际的貢献

2. 受賞者数は原則として毎年2名以内とする。

第3条 候補者の推薦は、原則として正会員2名の推薦状を付して、下記の書類を理事長に提出する。ただし推薦者のうち1名は同一機関以外のものとする。

(1) 受賞候補者の氏名、生年月日、所属、所属先住所、略歴

(2) 研究・実地活動の概要(2,000字以内)

- (3) 受賞対象となる研究・実地活動の資料 (1. 日本産業衛生学会, 学会誌, 地方会学会, 研究会, 研修会, 部会等での発表, 2. 関連する業績, 報告書, 活動記録等)

(4) 推薦状

2. 候補者の推薦は, 毎年4月1日から8月31日までの間に行う。

第4条 選考委員会は理事5名で構成する。委員長は委員の互選による。

2. 選考委員会は, 当該年度10月末日までに受賞候補者を理事会に推薦する。

3. 理事会は委員会の推薦に基づき, 受賞者を決定する。

第5条 表彰は日本産業衛生学会総会において行い, 受賞者は受賞講演を行う。

付則 1. この細則の変更は, 理事会の議決による。

2. この細則は, 昭和63年6月1日から施行する。

3. 平成12年10月14日に改定した。

日本産業衛生学会功労賞選考細則

第1条 日本産業衛生学会功労賞は, 永年にわたる真摯な産業衛生活動によりすぐれた業績を挙げ, 日本産業衛生学会の発展に貢献の著しい会員を顕彰する。

第2条 功労賞の受賞者は日本産業衛生学会の正会員で, 下記のすべての条件を満たす者とする。ただし, 名誉会員推薦の条件を満たす経歴を持つ会員, ならびに現役員は受賞対象から除く。

- (1) 満70歳以上の者

- (2) 日本産業衛生学会の正会員歴25年以上の者

- (3) 評議員又は代議員歴5年以上の者

- (4) 産業衛生活動又は産業衛生教育・研修活動に, 合算して25年以上従事した者

- (5) 産業衛生学会, 各部会又は研修会等で発表, 講演又は論文発表を合計5回以上行った者

2. 受賞者数は若干名とする。

第3条 候補者の推薦は, 原則として正会員2名の推薦状を付して, 下記の書類を理事長に提出する。ただし推薦者のうち1名は同一機関以外のものとする。

- (1) 候補者の氏名, 生年月日, 所属, 所属先住所, 略歴

- (2) 業績の概要 (2,000字以内)

- (3) 受賞対象となる業績目録

2. 候補者の推薦は毎年4月1日から8月31日までの間に行う。

第4条 選考委員会は理事3名で構成する。委員長は委員の互選による。

2. 選考委員会は, 当該年度10月末日までに受賞候補者を理事会に推薦する。

3. 理事会は委員会の推薦に基づき, 受賞者を決定する。

第5条 表彰は日本産業衛生学会総会において行う。

付則 1. この細則の変更は, 理事会の議決による。

2. この細則は, 平成12年10月14日から施行する。

3. この細則は, 平成20年3月15日に改定した。

名誉会員の推薦に関する細則

第1条 定款に定める名誉会員は本会の発展に著しい功労のあった正会員で, 第2条の条件に該当するものとする。

第2条 名誉会員推薦の条件は, 満70歳以上, かつ会員歴30年以上のもので, 次のいずれかに該当するものであること。

1. 理事, 監事, 地方会長, のいずれかを合わせて3期以上務めたこと。

2. 日本産業医学会, 日本産業衛生学会, 日本産業医協議会, 産業医・産業看護全国協議会の企画運営委員長, または学会長として開催に寄与したこと。

3. 産業衛生に関する国際会議の会長, または国際機関や国際学会の理事, 専門委員会委員長, 代議員として産業衛生の発展に貢献したこと。
産業衛生に関する国際会議は以下のものとする。

- (1) 日本産業衛生学会が主催・共催した国際会議・シンポジウム

- (2) 国際労働衛生会議 (ICOH), アジア労働衛生会議 (ACOH), 世界保健機関 (WHO), 国際労働機関 (ILO) などの国際機関が主催・共催する国際会議・シンポジウム

4. 以上のほか, 上記と同等以上と認められた場合。

第3条 名誉会員候補者の推薦は, その会員の所属する地方会長が行う。地方会長は候補者名, 生年月日, 住所, 略歴, 業績の概要を付した推薦状を当該年10月末日までに理事長に提出する。

第4条 選考委員会は理事3名で構成する。委員長は委員の互選による。

2. 委員会の選考に基づき理事会で承認し, 総会で推薦する。

第5条 名誉会員は本学会会費及び学会参加費が免除される。

付則 1. この細則の変更は, 理事会の議決による。

2. この細則は, 平成7年7月1日から施行する。

3. この細則は, 平成12年10月14日に改定した。

4. この細則は, 平成17年9月24日に改定した。

第 23 回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会 (第 4 報)

第 22 回産業衛生技術部会大会 合同開催

メインテーマ: 「連携, そして発展! 産業保健の未来を問う」

ホームページ: <http://square.umin.ac.jp/ncopn23>

【お詫び】当初平成 25 年 9 月 25 日 (水) に開催を予定していました四部会合同セミナーですが, 受け入れ職場である愛知教育大学の事情により, 9 月 13 日 (金) へ変更となりました。発表会は予定通り 9 月 26 日 (木) の午前に行います。異例な「飛び石」開催となり, 遠方よりご参加予定の方にとっては大変な不便をおかけしますが, なにとぞご理解いただきたく思います。

1. 会 期: 平成 25 年 9 月 13 日 (金) 四部会合同セミナー
平成 25 年 9 月 26 日 (木) ~ 28 日 (土)
第 23 回産業医・産業看護全国協議会

2. 会 場:
主会場: 名古屋国際会議場
〒 456-0036 名古屋市熱田区熱田西町 1 番 1 号
四部会合同セミナー: 愛知教育大学
〒 448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1

3. 主なプログラムの紹介
平成 25 年 9 月 13 日 (金) 午後 1 時 ~ (第 3 報から日程が変更になっています)

- ・四部会合同セミナー
趣旨: 人間工学的に職場を評価し, 改善提案を行う。
会場: 愛知教育大学

平成 25 年 9 月 26 日 (木)

合同企画
・人間工学的職場改善事例討論会 9 時半 ~ 12 時
四部会合同セミナー発表会
実地研修 14 時 ~ 16 時
トヨタ自動車 堤工場
JR 東海 名古屋工場
新日鉄住金 名古屋製鐵所
日本ガイシ 本社
アサヒビール 名古屋工場

教育講演① 13 時 ~ 14 時
・職場における有害物質による健康障害の防止
~ 最近の法的管理の動向を含めて ~
講師: 愛知教育大学 柴田英治

教育講演② 14 時 ~ 15 時
・職場のポジティブメンタルヘルス
~ ワークエンゲイジメントに基づく個人と組織の活性化 ~
講師: 東京大学 島津明人

シンポジウム① 14 時 ~ 17 時
・発達障害の特徴と職場での適切な接し方
趣旨: 最近増えてきて, 職場で問題視されている発達障害への対応を議論する。

連携事例アラカルト 15 時 ~ 17 時
① 職域保健と地域保健の連携, ② 大学と産業現場との学術連携, ③ 産業現場と地域医療との連携

趣旨: 産業保健スタッフが保健指導をする上で, 他の領域との連携をとって行っている好事例の発表

事例検討① 18 時 ~ 20 時
・健康診断結果に基づく就業判定の実際
趣旨: 健康診断結果に基づく就業判定を行う際の注意点等を, 事例を通して学ぶ。

事例検討② 18 時 ~ 20 時
・メンタルヘルス復職困難事例への対応
趣旨: メンタルヘルス不調者の中で, 再発を繰り返すなど

の問題事例への実際の対応を, 事例を通して学ぶ
9 月 27 日 (金)

合同企画
・リレーワークショップ: 産業保健職間の連携 9 時 ~ 12 時
趣旨: 産業保健スタッフが, どのように連携していくことがよいかを議論する。

シンポジウム② 9 時 ~ 12 時
・高齢化と産業保健 ~いっきと働き続けるために~
目的: 労働者の高齢化へ, 産業保健職がどのように対応すべきかを議論する。

シンポジウム③ 9 時 ~ 12 時
・メンタルヘルスとデンタルヘルス
目的: 歯科口腔に関する問題と, メンタルヘルスとの関連性を協議する。

シンポジウム④ 14 時 ~ 17 時
・バーンアウト障害: 職場でどう対処する。
目的: 職場でもっとも対応に苦慮する人格障害への対処方法を, 専門家を交えて協議する。

シンポジウム⑤ 14 時 ~ 17 時
・ガンを抱えながらの就労を考える。
目的: ガンを治療しつつ就労する労働者をどのように支えればよいかを議論する。

9 月 28 日 (土)

メイン企画 9 時 ~ 12 時
・大討論会: 産業保健の未来, 3 つの課題を問う。① 新型うつ: 自己責任 or 企業責任? ② 次代の主役は? 衛生管理者 vs 産業看護職, ③ 労働安全衛生法: 拡大すべき, 縮小すべき?
目的: 産業保健の課題を 3 つ取り上げ議論する。

関連行事
・日本産業衛生学会専攻医試験 13 時 ~ 16 時
URL: <http://ohtc.med.uoeh-u.ac.jp/ENV/new/index.html>
・産業看護特別研修会 13 時 ~ 15 時半

4. 参加申し込み方法

事前参加登録

1) 受付期間: 平成 25 年 5 月 20 日 (月) ~ 8 月 5 日 (月):
運営上の都合により前報より変更になりました。
ホームページから Web 登録をお願いします。 <http://square.umin.ac.jp/ncopn23>

四部会合同セミナー, 実地研修, 事例検討, リレーワークショップは, 事前申し込みが必要です。
参加費: 日本産業衛生学会 学会員

事前参加登録: 7,000 円

当日参加登録: 8,000 円

日本産業衛生学会 非学会員:

事前, 当日とも 9,000 円

5. 懇親会 テーマ: 産業保健の未来を語り合う

平成 25 年 9 月 27 日 (金) 18 時 30 分 ~ 20 時 30 分

名古屋国際会議場内 レストランカスケード

会費：5,000 円（事前）6,000 円（当日）

6. ポスター演題申し込み

- 1) 受付期間平成 25 年 5 月 20 日（月）～7 月 19 日（月）
ホームページから Web 登録して下さい。http://square.umin.ac.jp/ncopn23

*：各種申込方法の詳細は第 3 報およびホームページをご覧ください。

7. 事務局

企画学術事務局：大同特殊鋼 星崎診療所
〒457-0811 名古屋市南区大同町 2 丁目 30 番地
TEL：052-611-9437 FAX：052-614-2492
運営事務局：株式会社 JTB 中部 MICE 事業部
コンベンションデスク内
〒460-0002 名古屋市中区丸の内 1-17-19
キリックス丸の内ビル 7F
TEL：052-211-6733 FAX：052-231-1322
E-Mail：23ncopn@cub.jtb.jp

集団認知行動療法研究会 第 8 回基礎研修会

日 時：2013 年 7 月 6 日（土）9：30～16：30

場 所：九州大学 馬出キャンパス（病院キャンパス）総合研究棟 セミナー室 105
〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1
（市営地下鉄「馬出九大病院前」駅、または JR「吉塚」駅より徒歩 10 分）

参加費：

会員（一般）¥3,000 / 会員（学生）¥1,000（学生証提示） / 非会員 ¥6,000

プログラム：

- ・集団認知行動療法とはなにか
- ・集団認知行動療法プログラムの運営について
- ・認知への介入
- ・行動への介入

*グループ演習をしながら学んでいただきます。

申込方法：

ホームページ (<http://cbgt.org/>) よりお申し込みください。

(Fax にてのお申し込みも可能です。「7 月 6 日第 8 回基礎研修会参加」とご記入の上、お名前、ふりがな、所属、職種、郵便番号、住所、電話番号、メールアドレス、会員か非会員か、会員の場合は一般か学生かをご記入の上、03-3448-6507 までお送りください。)

代 表：

秋山 剛（NTT 東日本関東病院 精神神経科）

お問い合わせ先：

集団認知行動療法研究会 事務局 岡田佳詠（筑波大学医学医療系）

大谷 真（NTT 東日本関東病院）

〒141-8625 東京都品川区東五反田 5-9-22 NTT 東日本関東病院 精神神経科内

mail：cbgt.se@gmail.com Tel：03-3448-6508

入会のお申し込みもホームページ (<http://cbgt.org/>) にて承っております。

その後の研修会予定：

第 4 回中級研修会・総会（会員限定）

日 時：2013 年 9 月 8 日（日）9：30～16：30

場 所：NTT 東日本関東病院 4 階カンファレンスルーム

（JR、都営地下鉄浅草線、東急池上線「五反田」駅より徒歩 7 分）

参加費：会員（一般）¥3,000 / 会員（学生）¥1,000（学生証提示）

プログラム：特別講演：神村栄一先生（新潟大学人文社会・教育科学系 教授）

「病的ギャンプリングとその周辺群への認知行動療法支援：集団と個別による実践の経験から」

他、グループ演習をしながら学んでいただきます。

詳しくは、ホームページ (<http://cbgt.org/>) をご覧ください。

第 19 回ヒ素シンポジウム開催のお知らせ

※詳細は、第 19 回ヒ素シンポジウム・ホームページ (<http://hiso19.med.kyushu-u.ac.jp>) をご参照ください。

主催 日本ヒ素研究会

日時 平成 25 年 11 月 16 日 (土)～17 日 (日)

会場 九州大学コラボ・ステーション I 視聴覚ホール (2 階) (福岡市東区馬出 3-1-1 九州大学 病院キャンパス内)

大会組織 大会長・実行委員長 久永 明 (福岡県立大学)

副実行委員長 花岡研一 (水産大学校)

実行委員 田中昭代 (九州大学)

実行委員 平田美由紀 (九州大学)

テーマ ①ヒ素の生体影響 ②ヒ素の代謝・排泄 ③生態系におけるヒ素の分布と化学形

④ヒ素の環境汚染 ⑤環境からのヒ素の除去 ⑥ヒ素の分析法 ⑦その他

企画概要

・特別講演①: Kevin Francesconi (オーストリア グラーツ大学 教授)

Occurrence and possible role of arsenolipids in algae

・特別講演②: 山中健三 (日本大学 薬学部 教授)

ヒ素の代謝: 化学形態と生体影響

・特別講演③: 和田信一郎 (九州大学 農学研究院 教授)

土壌中のヒ素の形態とその溶出抑制技術

その他, 一般講演から構成します。

懇親会日時 11 月 16 日 (土) 18:00～20:00

懇親会会場 福岡リーセントホテル (福岡市東区箱崎 2-52-1, TEL 092-641-7741)

参加費 会員: 5,000 円; 非会員: 6,000 円; 学生・院生: 2,000 円

懇親会費 会員・非会員 事前申し込み: 5,000 円; 左記以外: 6,000 円; 学生・院生: 3,000 円

演題申込および抄録原稿受付

一般演題の申し込みおよび抄録原稿の受け付けは E-mail により行います。

①締切

演題申込: 8 月 30 日 (金)

抄録 : 9 月 13 日 (金)

②申込方法

E-mail でお申し込みください。ホームページ (<http://hiso19.med.kyushu-u.ac.jp>) から演題申込書をダウンロードして記入してください。E-mail の件名を「演題申込」とし、演題申込書を添付の上、下記までお送りください。

vbl2jimu@envmed.med.kyushu-u.ac.jp (第 19 回ヒ素シンポジウム事務局 松村)

E-mail での申し込みが困難な場合は、事務局までご連絡ください。(TEL: 092-642-7376)

事前参加申込

E-mail でお申し込みください。ホームページ (<http://hiso19.med.kyushu-u.ac.jp>) から参加申込書をダウンロードして記入してください。E-mail の件名を「参加申込」とし、参加申込書を添付の上、下記までお送りください。

vbl2jimu@envmed.med.kyushu-u.ac.jp (第 19 回ヒ素シンポジウム事務局 松村)

E-mail での申し込みが困難な場合は、事務局までご連絡ください。(TEL: 092-642-7376)

※当日申し込みも可能ですが、当日の混乱を避けるため、可能な限り、事前申し込みをお願いいたします。事前参加申し込みの締め切りは 10 月 18 日 (金) です。

参加費・懇親会費支払い方法

下記のいずれかの方法で会費の納入をお願いいたします。振込手数料はご負担願います。

1 郵便局からの払込

郵便局備え付けの「払込取扱票」にご記入の上、ゆうちょ ATM からご送金ください。

ATM 操作は「ご送金」→「払込書でのご送金」とお進みください。

口座記号番号 : 01720-8-150220

加入者名 : 第 19 回ヒ素シンポジウム

※払込取扱票には参加者の「お名前」「所属」「連絡先住所」「電話番号」を記入し、通信欄には振込金額の内訳 (参加費、懇親会費) をお書きください。

2 他金融機関やインターネットバンキングからの振込

下記の振込先口座にお手続きください。

ゆうちょ銀行 一七九 (イチナナキユウ) 店 (179)

口座番号: 当座 0150220

口座名称: ダイジュウキユウカイヒソシンポジウム

お問い合わせ先 第 19 回ヒ素シンポジウム事務局 田中, 平田, 松村

九州大学大学院 医学研究院 環境医学分野

メールアドレス vbl2jimu@envmed.med.kyushu-u.ac.jp

〒 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

九州大学 産学連携棟 I 2 階 環境医学研究室

TEL/FAX 092-642-7376

第 61 回日本職業・災害医学会学術大会のご案内 (第 1 報)

日本産業衛生学会の後援のもと、第 61 回日本職業・災害医学会学術大会を開催いたします。皆様から多くの演題のご応募をお願いすると共に、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【テーマ】働く人の健康と災害への備え ～産業保健と災害医学のクロストーク

【会期】平成 25 年 11 月 30 日 (土)～12 月 1 日 (日)

【会場】学術総合センター 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

【大会長】柳澤 裕之 (東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座 教授)

【ホームページ】<http://www.procomu.jp/jsomt2013/>

【プログラム】

○基調講演

産業保健と災害医学のクロストーク

○特別講演

過重労働の予防対策～疲労予知のための新しいバイオマーカー

○シンポジウム

第 12 次労働災害防止計画

わが国の産業中毒の最新トピック

職場のメンタルヘルス対策～事業場外資源の活用

高齢労働者の労働安全衛生対策

職場の健康対策と遠隔医療～緊急時への対応

職域における生活習慣病の現状と課題

○特別企画

ロコモティブシンドロームと健康寿命～働く人の生涯健康を目指して

○教育講演

健診における眼科検査～その意義と留意点

放射線の健康影響と労働衛生

医療の質と安全～向上に向けての取り組み

高次脳機能障害の理解と対応～復職を含めて

胆管がん問題にみる職業がん政策

災害時の復旧・復興作業におけるアスベストばく露防止対策

働く人の生活習慣病予防対策

○研修会

海外勤務健康管理指導者認定研修会

【参加登録】当日会場受付にてお手続きください。

参加費 医師 10,000 円, その他の方 (臨床研修医を含む) 5,000 円

【演題申込】大会ホームページの「演題募集」からお申込みください。

演題登録期間 平成 25 年 6 月 1 日 (土)～7 月 31 日 (水) (予定)

【認定単位】健康運動指導士 (3 単位) を取得できます。日本医師会認定産業医研修 (更新・専門 計 23 単位) および日本整形外科学会教育研修 (1 単位) を申請中です。

【本学術大会に関する各種お問い合わせ】

株式会社 プロコムインターナショナル

〒135-0063 東京都江東区有明三丁目 6 番地 11 TFT ビル東館 9 階

TEL: 03-5520-8821 FAX: 03-5520-8820

電子メール: jsomt61@procomu.jp

第 24 回日本末梢神経学会学術集会開催案内

会 期：2013 年（平成 25 年）8 月 23 日（金）・24 日（土）

会 場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

〒950-0078 新潟市中央区万代島 6-1 TEL：025-246-8400

テーマ：末梢神経治療の橋渡し研究と臨床応用の最前線

会 長：柴田 実（新潟大学大学院医歯学総合研究科 形成・再建外科学分野教授）

ホームページ：<http://shinsen.biz/24jpn/>

お問い合わせ：（運営事務局）株式会社 新宣 朱鷺メッセ営業所

TEL：025-243-7040 E-mail：24jpn@shinsen.biz

プログラム内容

特別講演

中田 力先生（カリフォルニア大学脳神経学教授・新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター長）

Robert J. Spinner, M.D. (Professor of Anatomy, Neurosurgery and Orthopedics Mayo Graduate School of Medicine, Mayo Clinic, Rochester, MN)

一般演題（口演発表・ポスター）

【詳細】<http://shinsen.biz/24jpn/endai.html>

パネルディスカッション

シンポジウム

「手根管症候群（CTS）の診断基準」他 3 題を予定

ワークショップ

産業医学講座講演

「業務上疾病としての末梢神経障害」

中平浩人先生（新潟青陵大学看護学科教授）

コメディカル・レジデント教育セミナー

コーディネーター：有村公良先生（医療法人三州会 大勝病院院長）

ランチョンセミナー，モーニングセミナー，イブニングセミナー

市民公開講座

日 時：2013 年 8 月 25 日（日）13：00～16：00

会 場：だいしホール 〒951-8066 新潟市中央区東堀前通七番町 1071 番地 1 [第四銀行本店内]

テーマ：「手足のしびれ」

- ・司会 三上容司先生（横浜労災病院整形外科）
- ・講師 桑原 聡先生（千葉大学神経内科）
- ・講師 池田和夫先生（金沢医療センター整形外科）
- ・講師 池田修一先生（信州大学神経内科）

会費納入のお願い

正会員各位

平成 25 年度の会費 10,000 円をご納入くださいますようお願い申し上げます。

郵便振替の払込取扱票は 55 巻 2 号 (3 月号) に綴じ込みしております。

必ず、会員番号、会員名等をご記入ください。

払込取扱票を紛失した方は、郵便局の青色の振込用紙をお使いになり、下記口座にお振込みください。

振込先口座：00100-7-133495

加入者名：公益社団法人 日本産業衛生学会

公益社団法人 日本産業衛生学会
事務局

平成 24 年度新入会者

[東京] 西村譲治

平成 25 年度新入会者

[北海道] 今西英俊, 小坂昭夫, 坂内 聖 [岩手] 田鎖愛理 [宮城] 井上 敬, 三浦 藍 [秋田] 駒井 茂 [福島] 清野弘子 [茨城] 根本佳代子, 橋村佳代子 [群馬] 岸由美子 [埼玉] 柴田匡邦, 名倉秀子, 吉元恵理子 [千葉] 森川隆司, 柳堀朗子, 山田洋太 [東京] 伊藤佳奈美, 上島亮子, 大塚浩子, 北嘉 昭, 木下乙女, 佐藤ひろみ, 嶋本直美, 田口可奈子, 野村美加, 林 智子, 原 真理, 本間悠子, 丸田伯子, 皆上カズエ, 森脇正弘, 吉澤篤人, 若菜愛子 [神奈川] 稲垣祐子, 鹿毛佳子, 檜原希世, 桂城涼子, 上澤美江, 北尾麻里, 笹島義徳, 清水少一, 下田千尋, 白石慶子, 高橋 亮, 中山徳子, 服部瑞徳 [新潟] 石川容子, 丸田美里 [富山] 藤田 一 [長野] 井上安見子 [岐阜] 奥田篤史 [静岡] 山口保子 [愛知] 井戸坂美智子, 岩越孝恭, 小野 要, 川越 隆, 神埼友子, 多賀三佐子, 鶴田義幸, 日比野稔, 眞鍋由佳, 水口 雪, 横山綾子 [三重] 山出美幸 [京都] 荻野博幸, 黒崎宏子, 三木秀樹, 渡邊はるか [大阪] 池田美香, 小野裕子, 木曾真一, 喜多敏美, 木野和子, 迫田寛人, 田中 亨, 徳久恵子, 橋本世津子, 春井佐知子 [兵庫] 岩佐浩子, 佐藤克彦 [岡山] 福島麻衣, 横溝 浩 [広島] 片岡 糸, 堀田裕司, 盆子原イツ子 [香川] 木本光則 [愛媛] 上田暢男, 緑川和重 [高知] 野上祥子, 弘田量二 [福岡] 大江美佐里, 中村千夏, 中村侑紀, 樋口重和, 椛本祥子 [長崎] 楠本優子 [熊本] 増田吉弘 [鹿児島] 増田秀一郎 [沖縄] 深井敦大